KU EXPRESS
関西大学 プレスリリース

KANSAI UNIVERSITY

研究活動　映画制作　　2026 年 11 月 9 日／No.39

■ アフリカの二つの島国、海を渡った家族の記憶をたどる ■

文学部・青木敬准教授が民族誌映画を制作

～ 10 年以上の現地調査を生かし、2029 年の完成を目指す ～

関西大学文学部の青木敬准教授（専門：文化人類学）は、映像作家の長良将史氏と共同で、アフリカの島国カーボベルデとサントメ・プリンシペを舞台とする長編民族誌映画『CREOLE ROAD クレオール・ロード（仮）』の制作に取り組んでいます。本作では、植民地期に契約労働者として海を渡り、離ればなれになった家族の記憶をたどります。青木准教授が 10 年以上にわたり培ってきた文化人類学の研究手法を生かし、現地の人々との対話を重ねながら、2029 年 3 月の完成を目指します。

本件のポイント

- **10 年以上の現地調査を生かし、文化人類学者と映像作家が長編民族誌映画を共同制作**
- **植民地期に海を渡った約 8 万人の契約労働者と、離ればなれになった家族の記憶をたどる**
- **現地の人々との対話を重視し、クラウドファンディングも活用して 2029 年 3 月の完成を目指す**

■ 契約労働で海を渡った約 8 万人 ― 離ればなれになった家族の記憶を追う

アフリカ西岸沖に位置するカーボベルデは、2026 年のサッカーW 杯初出場で注目を集めた島国です。20 世紀には干ばつや飢饉に苦しみ、多くの人々が契約労働者として、同じくアフリカの島国であるサントメ・プリンシペへ渡りました。その数は 1970 年代初頭までに約 8 万人に上るとされています。

当時、サントメ・プリンシペは世界有数のカカオ産地でしたが、農園では労働者の賃金や移動の自由が制限され、故郷へ帰れなかった人々もいました。こうした歴史は現在も、家族の写真や手紙、歌、料理などに断片的に残されています。本作では、二つの島国を往還しながら、海を隔てた家族の記憶をたどります。



■ 撮影そのものがフィールドワーク ― 対話を重ねながらつくる民族誌映画

民族誌映画とは、現地の人々の暮らしや文化を、継続的なフィールドワークを通じて記録・表現する映像作品です。青木准教授は 2012 年からカーボベルデで調査を続け、現地の音楽や移民、クレオール文化の形成とその変容を研究してきました。

本作では、青木准教授と映像作家の長良氏が共同で監督を務め、現地の人々との対話や日々の営みを記録します。撮影した映像を現地の人々と共有し、そこで生まれた新たな語りや反応を次の撮影につなげるなど、双方向の関係を重視して制作を進めます。また、カメラは話を聞く側の青木准教授にも向けられ、研究者自身が現地の人々との関わりのなかで変化していく過程も描きます。



<カーボベルデでの撮影風景>

■ 前作は国内外の映画祭で評価 ― 2029 年 3 月の完成を目指す

青木准教授と長良氏は、これまでにも共同で民族誌映画『カルロスのレシピ／Rhythms of Sodade』を制作しています。同作は、青木准教授が現地で出会った人物との 12 年間にわたる交流から生まれ、2025 年の東京ドキュメンタリー映画祭で人類学・民俗映像部門の準グランプリと観客賞を受賞。2026 年にはドイツ国際民族誌映画祭（GIEFF）で公式上映されました。

新作は 2027 年 4 月から 2028 年 1 月まで調査・撮影を行い、2029 年 3 月の完成を予定しています。完成後は二つの島国での現地上映や国内外の映画祭への出品、大学・研究機関での上映などを計画しています。総制作費約1,550万円のうち約1,200万円を確保しており、制作費の一部にはクラウドファンディングも活用しています。

発信元
関西大学　総合企画室 広報課　　担当：小林、伊地知
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35
Tel.06-6368-0007 Fax.06-6368-1266　www.kansai-u.ac.jp